

## 式辞

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

本日、みなさんの晴れの日を迎え、教職員一同、心からお祝い申し上げます。

卒業生のみなさんと過ごした時間は短いものでしたが、様々な行事や日々の場面場面で、みなさんの成長を見る事ができたのは、私にとっての喜びでした。

特に私が驚かされたことは、私がこの学校にやってきた四月早々に行われた修学旅行においてでした。初日はあいにくの雨模様の天気でしたが、そんなディズニーランドから始まり、それ以後の修学旅行中のすべての活動において、全員がきちんと時間を守って行動できていたことです。集合時間には誰一人として遅れることなく揃っていたことに、私は感動すら覚えました。当たり前のことを当たり前のようにすること、他人のことを考えて行動することがどれほど難しいことか。私にとっては忘れられない思い出です。

この三年間、みなさんは勉強や運動、学校行事など様々なことに一生懸命取り組み、大きく成長されたと思います。時には壁にぶつかったり、悩んだりしたことでしょう。しかし大切な仲間や家族の存在が大きな支えになったこともあると思います。この先、みなさんにはたくさんの出会いがあると思います。その出会いこそがみなさんのこれからの人生を彩ってくれるはず。そんなみなさんに素敵な出会いを生み出してくれる素敵な詩を贈りたいと思います。小泉吉宏さんの「一秒の言葉」です。

「はじめまして」この一秒ほどの短い言葉に一生のときめきを感じることもある。

「ありがとう」この一秒ほどの短い言葉に人の優しさを知ることがある。

「がんばって」この一秒ほどの短い言葉で勇気がよみがえってくることがある。

「おめでとう」この一秒ほどの短い言葉でしあわせにあふれることがある。

「ごめんなさい」この一秒ほどの短い言葉に人の弱さを見ることがある。

「さようなら」この一秒ほどの短い言葉が一生の別れになる時がある。

一秒に喜び、一秒に泣く。一生懸命、一秒。

私は四月からあいさつを大切にしようと話してきました。毎朝昇降口で全校生徒のみなさんからの「おはようございます」の元気な声でどれだけ一日の始まりが豊かに感じたことか。あいさつや、さきほどの詩にあった、「はじめまして」「ありがとう」「がんばって」「おめでとう」「ごめんなさい」「さようなら」の「一秒ほどの短い言葉」を進んで発することは、人のつながりを感じ、みなさんのこれからの人生をきっと豊かにしてくれるものと信じています。

これからのみなさんは、一人ひとりが様々な道へと踏み出します。時には不安や寂しさに襲われることがあるかもしれませんが。そんな時にはみなさんには絶対の愛情を注いでくれる家族と、共に喜び、悲しんでくれる仲間の存在を信じて、それぞれの道を力強く歩んでいってください。

最後に保護者の皆さま、地域の皆さま、本日はご臨席ありがとうございます。保護者の皆さまにとってはこれまでの義務教育の九年間、大変なことも多かったことでしょう。しかし、今日このように立派に成長したお子様の姿を見ていただくことができ本当にうれしく思っております。おうちの方々の深い愛情や地域の方々の暖かい見守りがあってのことだと思っております。本日は本当におめでとうございます。そしてありがとうございます。

それでは、卒業生のみなさん、これまでみなさんの成長に関わってくださったおうちの方やすべての方々への感謝の気持ちを忘れず、それぞれの未来に向かって進んでいってください。

卒業生のみなさんのこれまで以上の活躍を祈りつつ、簡単ではありますが式辞といたします。

令和七年三月七日 御蔭中学校長 谷口 北斗